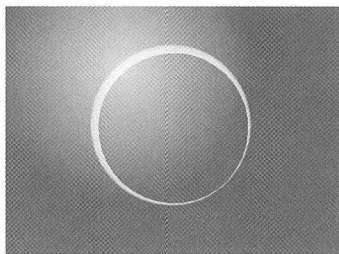


今後見られる日食

皆既日食が終わりました。今回の日食の詳しいレポートは、来月号の「うちゅう」で紹介予定です。残念ながら今回は陸地ではほとんど見る事ができなかったのですが、気の早い方はもう次の日食に向けて、期待を高められていることでしょうか。ということで、今後起こる日食をまとめてみました。

まずは大阪で起こる日食です。次回の日食は来年1月15日です。これは、アフリカ・東南アジアでは金環日食となるものですが、日本では16時47分に欠け始めたすぐ後、17時10分には日の入りとなってしまいます。

注目は2012年の日食です。これは、九州・四国・近畿の中南部、東海、関東地方では金環日食として見る事ができます。大阪でも金環日食になります。前回、日本で金環日食が見られたのは、沖縄本島で1987年9月23日のことでした。日本本土で見ることができたのは、1883年10月31日 東北地方においてですから、実に129年ぶりの金環日食になります。少し朝早いですが、ぜひとも観察したいものです。



2012年 大阪での金環日食
(ステラナビゲータにて作成)

その後は、大阪でみることが出来る日食は、当分部分日食のみとなります。2020年の日食の後には、大阪では10年間も日食を見る事ができなくなってしまうでしょう。大阪で皆既日食が起こるのは、あまりに先過ぎてははっきりわかりませんが、少なくとも29世紀まではありません。

表1 大阪で見ることが出来る日食

年月日(日本時)	欠け始め	食の最大(最大食分)	食の終わり
2010年 1 月15日	16時47分	日の入り後	日の入り後
2012年 5 月21日	6時17分	7時30分(0.94)	8時54分
2016年 3 月 9 日	10時05分	10時58分(0.23)	11時53分
2019年 1 月 6 日	8時40分	9時57分(0.38)	11時23分
2019年12月26日	14時22分	15時31分(0.37)	16時33分
2020年 6 月21日	16時06分	17時10分(0.54)	18時08分
2030年 6 月 1 日	15時52分	17時08分(0.73)	18時15分

ちなみに次回、日本で皆既日食が見られるのは2035年9月2日です。この日食は、新潟から北関東方面で見られるので、今年の日食に比べて遥かに交通の便はいいですが、今から26年後のことになります。しかし皆既日食そのものは1、2年に一回程度起こっています。それを表2にまとめました。

表2 今後地球上で起こる皆既日食・金環日食

年月日(世界時)	種類	継続時間	見られる地域
2010年 1 月15日	金環日食	11分8秒	ケニア、インド、スリランカ、ミャンマー、中国
2010年 7 月11日	皆既日食	5分20秒	南太平洋、イースター島
2012年 5 月20日 (日本時間21日)	金環日食	5分46秒	中国、日本、太平洋、アメリカ合衆国
2012年11月13日	皆既日食	4分 2 秒	オーストラリア(北部)、南太平洋
2013年 5 月10日	金環日食	6分 3 秒	オーストラリア、ソロモン諸島、南太平洋
2013年11月 3 日	金環皆既日食	1分40秒	大西洋、ガボン、コンゴ、ウガンダ
2015年 3 月20日	皆既日食	2分47秒	ノルウェー海、スヴァールバル諸島

今回の皆既日食は、2010年7月11日(世界時、以下同じ)です。残念ながらこの皆既日食が見られるのは、ほとんど南太平洋の海の上で、わずかに通る陸地は、クック諸島のマンガイア島、ツアモツ諸島の一部、チリ、アルゼンチン、そしてイースター島です。この機会にぜひイースター島に行ってみたくところですが、日食が起こることは何年も前から知られているので、既に世界中の日食マニアにより、宿の予約は満杯という状況です。この日食は、残念ながら南太平洋の楽園タヒチでは見ることができませんが、タヒチ島のわずかに数十キロ沖合を皆既日食帯が通っているので、クルーズ船が就航するかもしれません。

その次の皆既日食は、2012年11月13日、これも南太平洋方面で見られます。この日食が通る陸地はオーストラリア北部(ケアンズ等)のみです。比較的交通の便がいいですが、日の出とともに日食が始まるため、皆既になる状態ではまだ太陽の高度が10度程度と低いのが残念です。

2013年11月3日の日食は、アフリカ中部で見ることができます。この日食は、金環・皆既日食という珍しいタイプの日食になります。これは、月と太陽の見かけの大きさが食の経路の途中で全く同じになるため、経路の両端で金環日食、経路の中央で皆既日食となるものです。

2015年には、北極圏のノルウェー海やバレンツ海方面、スヴァールバル諸島で見られます。スヴァールバル諸島は北緯80度近くにあるノルウェー領の島々で、人が定住する場所では最北と言われています。まさに地球の果てといった感じの場所ですが、皆既日食の機会に行ってみるのも面白いかもしれません。

江越 航(科学館学芸員)